

## 目次

はしがき	i
<b>第1章 アイデンティティ経済学</b>	<b>1</b>
1. 社会的規範と経済行動	1
1.1 ホモ・エコノミカスとホモ・ソシオロジカス	1
1.2 合理性と社会的規範	2
2. アイデンティティと経済行動	4
2.1 人間行動に関するアイデンティティ・モデル	4
2.2 アイデンティティ経済学	5
2.2.1 効用関数	5
2.2.2 プロトタイプ・モデル	6
2.2.3 アイデンティティ喪失と夫と妻の家事労働行動	9
2.3 ジェンダー行動規範と家事労働	11
<b>第2章 JPSC2008 を用いた共稼ぎ夫婦の家事労働行動</b>	<b>15</b>
1. 序論	15
2. 先行研究	16
3. 定式化	22
4. 実証分析	24
4.1 サンプル	24
4.2 変数	24
4.3 記述統計	26
4.4 度数分布表	28
4.5 実証分析の結果	32

4.5.1 夫の家事労働行動	32
4.5.2 妻の家事労働行動	35
5. 結論	39
<b>第2章 補論</b>	
<b>共稼ぎ夫婦の外出・中食利用と家事労働削減</b>	
—JGSS-2006 を用いた実証分析を中心に—	41
1. 序論	41
2. 先行研究	42
3. 分析のフレームワーク	44
3.1 サンプル	44
3.2 変数	45
3.2.1 外出・中食需要関数	45
3.2.2 夫と妻の夕食準備	48
4. 実証分析	49
4.1 記述統計	49
4.2 実証分析の結果	51
4.2.1 外出・中食需要関数の推定	51
4.2.2 妻の夕食準備に関する拡張版自治モデルの推定	54
4.2.3 夫の夕食準備に関する拡張版自治モデルの推定	57
5. 結論	59
<b>第3章 JPSC2000–2008 パネルデータを用いた常勤職で</b>	
<b>働き稼ぐ夫婦の妻の家事労働行動</b>	62
1. 序論	62
2. 先行研究	64
2.1 Killewald and Gough の自治仮説	64
2.2 ジェンダー・ディスプレイモデルへの懐疑論	65
3. 定式化	66
4. 実証分析	67

4.1 サンプル	67
4.2 変数	68
4.3 記述統計	69
4.4 度数分布表	70
4.5 実証分析の結果	72
5. 結論	74
<b>第4章 JPSC2000–2008 パネルデータを用いた共稼ぎ夫婦の</b>	
<b>妻の家事労働行動</b>	76
1. 序論	76
2. 定式化	77
3. 実証分析	78
3.1 サンプル	78
3.2 変数	78
3.3 記述統計	80
3.4 度数分布表	82
3.5 実証分析の結果	84
3.5.1 常勤職に就く妻	84
3.5.2 非常勤職に就く妻	86
4. 結論	88
<b>第5章 JPSC2000–2008 を用いた Akerlof and</b>	
<b>Kranton 仮説の検証</b>	90
1. 序論	90
2. 定式化	91
3. 実証分析	91
3.1 サンプル	91
3.2 変数	92
3.3 記述統計	93
3.4 実証分析の結果	94

4. 結論	95
<b>第6章 日本の共稼ぎ夫婦のジェンダー・アイデンティティ喪失と家事労働分担行動におけるジェンダー・ディスプレイ</b>	<b>98</b>
1. 序論	98
2. 2008年1月実施アンケート調査の結果	99
2.1 男性	99
2.2 女性	106
3. 実証分析の結果	112
3.1 夫	112
3.2 妻	113
4. 結論	115
<b>第7章 共稼ぎ夫婦の家事労働分担行動に関するジェンダー・ディスプレイ：家事生産アプローチからの実証分析</b>	<b>117</b>
1. 序論	117
2. モデル	118
3. 実証分析	122
3.1 仮説	122
3.2 サンプル	123
3.3 記述統計	123
3.4 実証分析の結果	125
3.4.1 夫	125
3.4.2 妻	126
4. 結論	126
参考文献	128
索引	133